

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
B-141	14-205	高崎健康福祉大学
<b>題名(原題/訳)</b>		
The effects of age at the onset of drinking to intoxication and chronic ethanol self-administration in male rhesus macaques. アカゲザルでエタノール摂取の開始年齢が中毒と慢性エタノール自己投与に与える効果		
<b>執筆者</b>		
Helms CM, Rau A, Shaw J, Stull C, Gonzales SW, Grant KA.		
<b>掲載誌</b>		
Psychopharmacology (Berl). 2014; 231(8):1853-61. doi: 10.1007/s00213-013-3417-x.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID:</b>
エタノール、アカゲザル、自己投与、アルコール乱用		24448900
<b>要旨</b>		
<p><b>目的:</b> ヒトでは青年期の後期にアルコール摂取が始まり、18-25 歳で最も多くアルコールを摂取し、その後、加齢と共に摂取量は低下していく。飲酒開始年齢とアルコール乱用との関連が示されているが、一方、ヒトを対象にした研究では様々な社会的要因で影響され、自己申告による調査では統計的バイアスにも影響される。我々は、エタノールを持続的に摂取する非ヒト霊長類モデルを確立し、本研究でエタノール飲酒の開始年齢あるいは最初の中毒の年齢がその後のエタノール消費に関連するかどうか検討した。</p> <p><b>方法:</b> 雄アカゲザルを、エタノールの自己摂取開始年齢ごとに割り当てた: 青年期後期でエタノールを摂取させる群(8例、4.0-4.6歳)、若年成体期(8例、5.0-5.6歳)、中年成体期(11例、6.9-9.7歳)。アカゲザルは、食餌供給固定スケジュール(300秒)でエタノールの用量を0から1.5 g/kgまで増加して自己投与を訓練した。1.5 g/kg エタノールの摂取開始後は、一日あたり22時間、エタノールと水の両方を摂取できるようにして12ヶ月飼育した。</p> <p><b>結果:</b> 若年成体期で自己摂取を開始したサルは、3群のなかでエタノール1日摂取量が最も多く、血中エタノール濃度も一番高かった。青年期後期で開始したサルでのみ、自己摂取開始から次の6ヶ月でのエタノール摂取量が増大した。アカゲザルの成熟の程度を示す血漿テストステロンレベルでエタノール摂取による影響はみられなかった。</p> <p><b>結論:</b> アカゲザルの若年成体期でのエタノール摂取開始は、ヒトでの研究で問題になる社会文化的要因とは無関係に、その後の多量飲酒を引き起こす傾向が認められた。また、青年期後期のある時期での中毒にいたるエタノール摂取は、その後の多量飲酒に至る飲酒量の増大と関連している。本研究の結果は、エタノール摂取の増大につながる飲酒開始の決定的な時期があることを示唆している。</p>		